

9・11はアメリカの学校の授業でどう扱われたか

アメリカの放送といえばABCやCBSを初めとする商業放送が主流であるが、全国各地で独自に活動する非営利の放送局を結ぶ公共放送ネットワークとしてPBS (Public Broadcasting Service)がある。PBSの運営や組織は日本の公共放送であるNHKとさまざまに異なっており、財政的基盤は弱く、社会的な影響力も小さい。しかし、良質のドキュメンタリー番組や討論番組を放送し、アメリカの良心的な視聴者に支えられている。教育にも力を入れており、PBSオンラインは、番組用の手引きやリアルタイムで学ぶオリジナルなウェブコンテンツを載せており、ニュース、歴史・文化、科学・技術の項目から、現代社会の問題を深く調べることができるようになっている。

オンラインNews Hourのページには、Extra main pageというセクションがあり、教師用リソースとして最新のニュースを使った授業案が掲載されている。本特集では、9.11の同時多発テロ事件に関連した授業案の中から3つを選び、要約して紹介する。

この授業案はアフガニスタンでの地上戦が始まる前に掲載されたものであり、中学生や高校生が今日の問題をできるだけ広い視野に立って考えることができるように意図して提案されている。コンピュータというメディアを使いながら、実際の社会問題を題材にして、現代社会が抱える問題を世界の歴史、政治、経済などと結びつけ、包括的に捉えようとしている。

しかし、アメリカの中学生や高校生を対象とした授業案であることからリソースがアメリカ中心であるなど、限界を種々指摘できる。

そうはいつても、そのような社会的背景を

理解しつつ「表現の問題」や私たちの「認識の問題」を批判的に問い、テロのない社会をどう構築するかという提案にまで展開させていることは、注目に値するだろう。詳細についてはサイト<http://www.pbs.org>を直接参照してほしい。

授業案1

「アフガニスタンの現状～内戦と人権～」

対象：高校生 1回（1時間）×3回

学習の概要

生徒たちは、アフガンとタリバンについては、ニュース等で既に頻繁に耳にしているだろう。そうした中、アフガンにおけるタリバンの占める位置をはじめ、タリバンの政策によって人権に関する懸念すべき問題が持ち上がっていること、そして現在のアフガンの経済的文化的状況はどのようなものなのかなどについて、生徒たちが理解できるように援助する。この授業で得られる知識によって、短期的あるいは長期的な視野から、戦争がアフガンの人々にとって何を意味するかについて論理的に考えることができるようになるのがねらいである。

●冷戦時代の合衆国とソ連邦との関係が及ぼした多大な影響について理解する。(例：エジプト、イラン、コンゴ、ヴェトナム、グアテマラといった国々に対する影響力や支配をめぐる米ソの競合の結果等)

●冷戦時代の両国にとって、イスラム諸国が戦略上重要な役割を果たしていたこと、ソ連邦の崩壊以来、この地域の戦略上の役割が変化していることを考え、理解を深める。

●政治的なイデオロギーや宗教、またエスニ

シティ等が、近代的な政治体制の形成においてどのような役割を果たしているかについて理解する。

●エスニシティや文化的なアイデンティティ、宗教上の信条といったものが、世界中で起こっている経済的・政治的な意味での紛争とどう関連し、どんな役割を果たしているか、について理解する。(例：なぜテロリストの運動がこれほどまでに増え、様々な国の政治や社会に多大な影響を及ぼすまでになっているのか。また、「世界経済のグローバル化の動向」と「伝統的な文化アイデンティティに基づく自文化と他文化の区別」、この二つの間には、相容れない矛盾や緊張関係があること、さらに、そうした矛盾や緊張関係は、現代社会における宗教の役割についてのこれまでの考え方に対する挑戦をも含んでいること、軍事行動と密接に関連する「聖戦」という考えや他のイスラム教の信条、これらはジュネーヴ協定から見て、どう考えられるべきなのか、これらの法や原則はテロリストの活動にどのように適用されるべきなのか、など)

※註 これは後出の授業案3でも取り上げられている。(授業案3ではその部分を省略)

●アメリカという国家の持つ本質的価値や意味、またアメリカの対外政策における基本方針、これらが世界に与える影響について、また、諸国が国際政治上の実際的な要求を行うにつれて、アメリカ的価値観、その基本原則、国家の利益をめぐって緊張が高まる可能性があるということを理解する。

授業のすすめかた

1. アメリカに対するテロ攻撃の勃発以来、アフガニスタンは注目されている。それは容疑者とされているウサマ・ビンラディンが潜伏しているからである。しかし、この国はタリバンの存在から、今回のテロ以前にすでに

人々の注目を浴びていた。

2. タリバンについて何を知っているか。タリバンとは何で彼らは何者なのか？ なぜ今回のテロが起こる前でさえ、タリバンに対して懸念されていたのか？

3. 以下の引用について話し合う。

「タリバンについて考える際、ナチについて考えてみよ。ビンラディンについて考える時には、ヒトラーについて、アフガニスタンの住民について考える時には、強制収容所のユダヤ人について考えてみよ」

ータミン・アンサリー “アフガン系アメリカ人が語る” より

4. この引用は、ウサマ・ビンラディンとタリバンとの関係について何を意味しているか？ タリバンとアフガニスタンの人々との関係に関しては、何を、そして今アフガニスタンで起こっていることが何であると暗示しているか？

5. この引用の著者が言っていることは、正確ではない(ヒトラーはナチスの首領であったが、そもそもビンラディンはタリバンの首領ではない)。にも関わらず、タリバンに反対する人々の多くは、このアナロジーに囚われている。

6. タリバンを理解することは、9.11のテロリストの攻撃に対する政府の反応を理解するのに重要である。以下の問について、グループまたは個人で調べ、わかったことを五つ挙げる。

○どのようにしてタリバンは力を持つにいたったのか？

推奨リンク：

・Human Rights Watch：アフガニスタン

ー他国に干渉された歴史

・ニューヨークタイムズ紙：“アフガンの独裁

者はいかに台頭したか” (1996 年)

・ Radio Free Europe : アフガニスタン-タリバン政権の台頭

・ BBC ニュース : タリバンとは何者か?

○ なぜ人権保護団体がタリバンについて懸念しているのか?

推奨リンク :

・ Human Rights Watch:アフガニスタン

・ 米国医師会 : アフガニスタンにおける女性の健康と人権(1998 年)

・ BBC ニュース : ベールの裏側

・ タイム誌 : アフガニスタン : 世界が忘れていた飢餓”

○ タリバンの宗教上の見解は、世界各地の他のイスラム教宗派のそれと比較してどのように異なるのか?

推奨リンク :

・ CBC:タリバン、アフガニスタンの原理主義指導者 (2001 年 5 月)

・ イスラム女性同盟:“アフガニスタンのタリバン : イスラム教の歪曲(1998 年)

・ カンザス・シティ・スター紙 : “アフガンの支配者タリバンはどのようなイスラム教徒か” (2001 年 9 月)

・ アル-アフラム・ウィークリーオンライン:“タリバンからイスラム教を解放せよ” (1998 年)

7. タリバンだけでなく、アフガンの人々は、長く続いた内戦と 1979 年に侵攻した旧ソビエトとの 10 年にわたる戦争によって、苦境を強いられてきており、国土は荒廃しきっている。そして、この間、合衆国は以下のような対応をとってきた。

a) 反ソビエトの抵抗戦を続けるアフガン人に武器を与え、また軍事訓練を施す。そして、そうした「対ソ反逆者」の多くが現在タリバンのメンバーである。

b) 3 年前の 1998 年には、アフガンとパキス

タンの国境付近でテロリストのキャンプの疑いのある場所を爆撃している。

8. ソビエト対アフガンの戦争に続いてタリバンが台頭してきた時代に、アメリカはアフガニスタンに対して、上記の行動以外に他に何をすべきだったと思うか。私たちアメリカは、アフガニスタンが今のような状況にならないようにすることができたであろうか?

9. 以下の立場のうちどれか一つを選んで、その人の立場からアフガニスタンの現代の生活についてどう考えるかを書いてみる。以下の人々は将来何をしたいと希望しているか? また、以下の人々にとっての脅威は何か? 彼/彼女らは、アメリカとの地上戦をどのような気持ちで受けとめるだろうか?

○ タリバンの軍事指導者

○ 以前教師だったアフガニスタンの女性

○ 北部同盟のアフガニスタンの兵士

○ アフガンの北方の隣接国ウズベキスタンの人々

10. これまで学んだことをもとに、もし合衆国がアフガニスタンに対して地上戦を仕掛けたら、どんなことになるだろうか。先の引用の著者 (タミン・アンサリー) の意見と比較してみよう。

授業案 2

「試練の時こそ寛容を」

対象 : 中高生 1 回 (1 時間) × 3 ~ 4 回

学習の概要

第二次大戦中の日本とドイツの人々に対する扱いを「試練の時代」における民族紛争の歴史的事例として取りあげることにより、特定のエスニック・グループの人々を、民族や国という枠組みとともに非難し差別するという考え方や行為の内に、本質的に潜んでいる間

題について探る（特にマスメディアにおけるエスニシティの提示や強制収容所について取り扱う）。国内外に存在する民族紛争や差別、ステレオタイプ等の事例にも触れながら考えていく。

●社会の変化とエンタテインメント産業が芸術、ジェンダー、文化におけるものの見方に与える影響について理解する。（例：社会の変化とともに変わる民族の多様性が、どのようにアメリカ社会における芸術表現に影響を与えているか。テレビ番組にそうした価値観はどのように反映しているか）

●アメリカ社会の形成に重要な役割を果たしてきた、いくつかの要素について理解する。（例：信教の自由、多様な民族による国家の構成、社会における相対的平等主義、など）

●個別の価値観とアメリカ国家の基本原則は相互に依存した関係にあることを理解する。（例：個人の自由と多様性）

●アメリカ社会における多様性の様々なあり方について知る。（例：宗教、言語、社会経済等における多様性のあり方）

●アメリカ市民の生活において多様性が果たす価値と役割に関連した、様々な異なるものの見方について知る。

●多様性から派生する衝突や紛争の実例について知り、いくつかの紛争について、それらがどのように扱われ、うまく処理されてきたか、また、そのうちのいくつかがなぜ今もって解決していないのかについて理解する。

●第二次世界大戦中に国内でどんな出来事があったのかについて理解する。（例：経済／軍事面での国民の動員、日系アメリカ市民の収容とそれが市民の自由という国家の基本理念にとって何を意味しているのか）

●マイノリティのエスニック・グループがどのように第二次世界大戦によって影響を受け

たかについて理解する。（例：戦時中仕事を得るためにどのようにマイノリティの人々が結集したか、こうした人々が直面した差別、日系アメリカ市民が収容所に隔離されることになった諸要因について、など）

●映像メディアにおけるステレオタイプを分析するための方法について理解する。（例：特定の社会集団が、他を犠牲にして利益を得るためにステレオタイプが寄与していることを認識する。こうしたステレオタイプを不変のもののように構成する映像メディアにおいて、どんなテクニックがあるかを把握する）

授業のすすめかた

1. まず、以下の戦争プロパガンダポスターを見る。

What Are You Going To Do About It?

Shooting Off Your Mouth

Keep These Hands Off!

Stamp 'Em Out

We're Fighting To Prevent This

2. 次の問いについて考えよう。

○これらのポスターはいつ作られたものか？
どう思うか？

○ポスターはドイツと日本の人々をどのような人たちであるといっているか？

○ポスターは、ドイツや日本の「兵士」について何を伝えているか？ それとも両国の一般の人々について何かを伝えているのか？

○もし、これらのポスターがこうした人々のコミュニティ内に貼られていたとしたら、ドイツ系や日系のアメリカ市民はどう感じただろうか？

3. ドイツ系および日系アメリカ市民が第二次大戦中にどのような待遇を受けたか調べる。以下のサイトの参照から始めるとよい。

○収容所の子ども達

<http://www.pbs.org/childofcamp/>

○ 良心と憲法

<http://www.pbs.org/conscience/>

○ 第二次世界大戦中のドイツ系アメリカ市民の収容

<http://www.foitimes.com/internment/>

4. 自分たちが以下のどれかの立場になったつもりで、手紙または日記を書く。

○ 第二次世界大戦中のアメリカに住むドイツ系または日系の移民

○ 大戦中のドイツまたは日本の兵士に殺されたアメリカ兵の肉親または配偶者

5. 今回のテロリストによる攻撃について、1941年12月の日本による真珠湾攻撃と比較する報道が多くなされている。この報道は妥当なものだろうか？ この二つの間にある状況の違いは何だろうか？ また、類似する点は何だろうか？ 全員で討論し、黒板や OHP を使ってチャートを作成する。

6. テロに関する報道において、多くのニュースがテロ攻撃を歓迎しているパレスチナの人々の映像を流している。この報道の結果、パレスチナの人々、さらには一般的なアラブの人々に対する反感が高まっている。しかし、こうした報道がなされた時点では、誰がテロを行ったのかは不明であり、こうしたテロを祝福する意識が中東においてどれくらい広まっているのかについても不明であった。

7. 「テロリスト」という言葉を耳にした時、連想するものを思いつくまま挙げてみよう。

(口頭で発表してもよいし、誰が何を言ったのかはわからないように紙に書いて集め、みんなに聞こえるように読み上げるのもよい)

「アラブ」「中東」「イスラム教徒」という語が何回出てきたかに注意を向ける。「アラブ」「中東」「イスラム教徒」=テロリスト” だという性格づけをすることはフェアなことだろ

うか。こうした捉え方は、第二次世界大戦中の日系およびドイツ系アメリカ市民に対する性格づけと比較してどうだろうか？

8. 『マーシャル・ロー』『トゥルーライズ』等の映画をとりあげ、分析することで、メディアがどのようにアラブの人々を描写しているかを見ていく。以下のサイトもみてみよう。

○ 『マーシャル・ロー』: カウボーイとアラブを扱った公開中のハリウッド映画

<http://www.library.cornell.edu/colldev/mideast/arbhol1.htm>

○ ベイルートタイムズ: “ 「アラブの悪漢」はディズニーのお気に入り ”

<http://msanews.mynet.net/Scholars/Khourig/disney.html>

これらの映画の他にも、どんな提示の例があったか。肯定的なもの否定的なもの両方の例を挙げてみよう。

9. 以下のワシントンポスト紙の記事を全員で見ると見る。

“アラブ系アメリカ市民 脅迫・襲撃さる”

http://www.washingtonpost.com/wpsrv/online/20010913/aponline123907_000.htm

この記事は、9月11日のテロ攻撃後に起こったアラブ系アメリカ市民に対する襲撃を批判しているのだが、映画やその他のエンタテインメント等、マスメディアにおけるアラブ人の提示の仕方と、アラブ系アメリカ市民への襲撃とは、何か関係があるだろうか？

10. 自分たちのコミュニティにおいて、ステレオタイプな見方で他の民族の人々を捉えないようにすることはできるだろうか？ それにはどのような方法があるか。ブレインストーミングで、その方法をリストアップする(様々な展示会、各民族の祭りの開催、映画の上映などがありえるだろう)。こうしたもの

のうち、地域レベルで行えるものは何か？
また国家規模でやったほうがよいものは何か？
リストアップされたアイデアから、
クラスで実際にできるもの、コミュニティの
メンバーと協力して行ったほうがよいもの
を選び出す。

11. 以下のサイトも参考になるだろう。

○ 平和への旅

<http://www.pbs.org/journeytopeace/teachers/index.html>

○ スレブレニツァ：墓からの叫び

<http://www.pbs.org/wnet/cryfromthegrave/lessons/lesson2.html>

社会にとって悩みであると同時に利益でもある民族のアイデンティティ、差別や不安といった事柄を取り上げたPBSの授業計画

○寛容を教えよう：

<http://splcenter.org/teachingtolerance/tt-index.html>

授業案3

「テロを“抑える”」

対象：高校生 1回（1時間）×3回

学習の概要

この授業では「誰が国際的テロを止めることができるか？」という問いを投げかける。授業を通して、テロ撲滅にむけた様々な国際的活動について知り、また、いろいろな国際的なサミットや会議の勧告について学ぶ。そして、様々に異なる基準による提案の有効性について話し合う。

●世界における紛争や協調の事例について知る。（例：貿易上の条約を結んでいる国々や、難民の問題を抱えている地域など）

●この地球上の様々な事柄を支配しようと、

人々がどのように、またなぜ競いあっているのかについて知る。（例：民族／国家の違い、政治的な支配への欲望、経済格差、など）

●地域や国家の協調や紛争の要因となるものについて理解する。

●世界各地における政治や社会の状況を改善しようとする努力について理解する。

●現代社会における政治上の紛争やテロの事例について理解する。

●世界各地での重要な政治上の動向は、アメリカ合衆国と無関係ではなく、影響があることについて理解する。（例：ナショナリズムの高揚、先の2度の世界大戦、植民地主義の衰退、テロリズム、EUのような地域統合の動き等）

授業のすすめかた

1. 2001年9月11日のニューヨーク、ワシントンD.C.、ピッツバーグへの攻撃は、失われた人命の数やその犯行の性質からいっても、これまで世界各地で起こったテロリストによる攻撃の中で最も恐ろしいものである。このことを理解するために、テロについて知っていることをあげ、それをクラスで共有する。なぜテロリストは世界貿易センターと国防総省を狙ったのか？なぜテロリストはアメリカの旅客機を選んでハイジャックし、それを武器として使ったのだろうか？アメリカ合衆国はこうした事柄に対して、どう対応すべきだろうか？

2. 国内外での他のテロリストによる攻撃には他にどんなものがあつたかを思い出し、それらについて考えてみよう。これまでの攻撃は、今回のテロの規模と比べてどうだろうか？これまでの攻撃の方法と共通する点は何か？

3. 過去5年間に世界中で起こったテロにつ

いてもっとよく知るために、グループで以下のサイトにアクセスする。そして、これらのテロ活動を時間の流れや地図上にまとめる。

○ 合衆国国務省：

グローバルテロリズムのパターン
<http://www.usis.usemb.se/terror/index.htm>
1

○ 国際対テロリズム安全保障協会

<http://www.iacsp.com/terror-in.html>

4. 上記サイトや他のサイト (Hunting bin Laden 等) を参照しつつ、テロリストのグループに共通する特徴をあげる。あるいはそれを概念化したウェブを作る。テロリストはどのような動機を共有しているか? どのように計画を遂行し、どのように捜査網を逃れているか?

5. テロ廃絶にむけて活発に活動しているいろいろな機関、またテロについて国際的に情報を収集している様々な機関について学ぶ。ペアあるいはグループで、こうした機関がテロに対抗するために行っている仕事がどのようなものかを簡単にまとめる。

○ 米国情報局：テロへの対応

<http://www.usinfo.state.gov/topical/pol/terror/>

○ 列国議会同盟 (IPU)

<http://www.ipu.org/conf-e/95spl.htm>

○ 北大西洋条約機構 (NATO)

<http://www.nato.org/>

○ 米州機構

<http://www.oas.org/>

○ 国連の学生向けページ:

<http://www.un.org/Pubs/CyberSchoolBus/unintro/unintro.html>

6. 以上を学んだうえで、テロを撲滅するためにどのような解決策があるか考える作業をグループで行う。その際、ネット上の様々な

提案、また、以下の簡易リストを参照してよい。これらのサイトを調べつつ考え、わかったことや勧告の中で、最も重要なものを自分たちの言葉で説明する。

○ 国連:テロ活動制圧のための国際大会 (1997年)

<http://www0.un.org/cyberschoolbus/treaties/terrorist.asp>

○ 国連プレスリリース (2000年12月)

安全保障理事会はテロ行為防止にむけて、アフガニスタンのタリバン政権へ、新たに広範な措置とるよう課す。

○ 国連プレスリリース (2000年12月)

テロと戦う努力について、弁護団が安保理に申告、国際法制度について報告するとともに、相互協力の必要性を強調

○ G 7 / P 8 テロ行為に関する協議 (1996年)

http://www.epic.org/privacy/terrorism/g7_resolutions.html

○ テロ行為に関する米州特別会議 (1996年)

<http://www.oas.org/EN/PINFO/CONVEN/li00065e.htm>

○ 国際協力増進による対テロ国際会議 (2000年) 国連薬物統制犯罪防止室 (ODCCP) のアルラッキー事務局長による冒頭演説

<http://www.unis.unvienna.org/en/speeches/00-09-22.html>

○ 対テロ国際政策協会：対自爆テロ対策会議 (1998年)

<http://www.ict.org.il/>

7. 各々のグループに、国連の代表団になったつもりで、テロ根絶に向けての行動指針や基準・条項を自分たちの手で作るのだという気持ちで作業を進める。資料や討論を通して学んだ事柄の中で、最も重要かつ有効な勧告を5つ挙げるとしたらそれは何だろうか?

自分たちの考える勧告5か条を、それを信じるに足る正当な理由とともに提案し、クラスで共有する。

8. クラス全員で、各々の異なる提案について評価する。どれが最も重要かつ意義があるか？ 各々のグループの提案の良い点、それが持つ有効性とメリットについて議論する。

「テロリズム」というキーワードで検索すると出てくる「アムネスティ・インターナショナル」のサイトのコメントにも留意しよう。これは、テロリズムに対抗するための方策と個人の自由の間で生じる矛盾を考え、両者のバランスを探るといった内容のものである。

9. ブッシュ大統領は9月11日夜、国民に向けた演説の中で「合衆国による報復は、テロリストのグループに対してだけでなく、それをかくまったり、テロ行為を勧めたりする疑いのある国にむけてもなされるであろう」と発言した。この発言とその意味に関してもっとよく知るために、既に見てきた政府機関のサイトに加えて、PBSのオンラインニュースでの何人かの元政府高官を交えたパネルディスカッションのサイトを見る。

政府のこのような政策についてどのように考えるか？ 例えば、もしアメリカがアフガニスタンに（というのは、アフガニスタンは対米テロ攻撃の主謀者だと強く思われているテロリストをかくまっている国であるという疑いがあるからだが）空爆をしたら、どうなるだろうか？

この問に対する意見をエッセイとして書く準備をする。軍事攻撃、そして／あるいは、テロリストをかくまっている疑いのある国々に対する制裁といった政策を支持するか？ 各自、自分の意見をきちんと弁明しつつ発表する。

* 本特集の授業部分の翻訳では、慶応大

学デビー・ラニー先生の授業の一環としてFCTでインターンシップを行った同大学環境情報学部2年生・木村亮太さんによるものをベースに使い、それに訂正・加筆した。

— 『fctGAZETTE』 No. 76(2002年3月)掲載 —